



しもよねだ



No. 7

学校の教育目標 かしこく(よく考える子) あたたく(思いやりのある子) たくましく生きる子(強い体の子) 令和5年10月2日

学徳高き<津田左右吉博士>のふるさと下米田で、**健やかに育つ子ら!**

ひとつの言葉

校長 佐藤 亜紀

見上げる空には“うろこ雲”が浮かぶ季節になり、赤とんぼと並行して眺める景色に秋の装いを感じます。朝晩は、過ごしやすい気温になりましたが、まだまだ日中は残暑が厳しく、子どもたちの健康を守るためにも熱中症指数の計測は欠かせない日々が続いています。



「ねえねえ、校長先生！これは何て読むの？」→「これは、“ことば”って読むよ」
「校長先生！私ね、昨日、お出掛けしたよ。」→「嬉しいね。何処へお出掛けしたの？」
「校長室って、津田博士の写真もあるね。本もいっぱいある！」→「これは、津田博士が下米田小におみえになった時の写真だよ。」「この本は、いつも鍵がかかる棚に大切に並べてあるよ。」

子どもたちに会うたびに会話が広がります。校長室の中や廊下の卒業写真を興味津々に見入る子どもたちとの会話も弾みます。自分が相手に伝えたいことを話す時の子どもたちの表情はキラキラと輝き、まっすぐに私の目を見て話すそのまなざしの眩しさに自然と笑みがこぼれます。

今年度は、子どもたちの表現力を高めることを目的に、それぞれの専門家から基礎的な話し方の所作、相手の意図を汲み取って自分がどう伝えるかという基本的な心構え等を、これまで全学年が3回にわたって教えていただきました。「相手意識」のある話し方や聞き方ができる力を付けるための基礎基本です。

語尾までしっかりと話すこと、この言葉をつかうと相手はどう思うのか等、場面を設定し、実践的に体験しながら学びました。(その様子については、是非、お子さんに『「話し方講座」「仲間づくり講座」でどんなことを教えてもらったの?』と聞いてみてください。)

ひとつの言葉だけで、相手の言いたいことを察することは可能です。それは、その言葉の前後の言葉の流れから想像して“察する”のだと思います。でも、子どもの世界だけでなく大人の世界でも、“すれ違い”は起こり得るものです。「きちんと最後まで話せば、相手にも伝わったのに・・・」という経験はきっと誰にでもあるのではないのでしょうか。

北原白秋「ひとつの言葉」の詩を校長室前の廊下に掲示しています。その詩を大きな声で朗読して通っていく子どもたちの声を聞き、今日も笑顔のしわを増やしています。